

## I C T 授業活用教育実践

対 象	特別支援（施設内教育学級）【小学部5，6年，中学部】
教科等	外国語活動（小学部），総合的な学習の時間（中学部）
単 元	外国の人々と交流しよう
ねらい	これまでの授業で学習した表現を使い，自己紹介をする。 外国の人々（留学生）に知りたいことを質問したり，取り組んでいることを伝えたりする。 入院中のため直接の交流が難しい状況でも I C T を活用し，交流の場面を創出する。
I C T 環境 （授業で使った機器）	児童生徒（施設内教育）：Windows パソコン，ウェブカメラ， スピーカー，プロジェクタ，iPad 留学生（特別支援学校）：iPad，スピーカー，大型モニタ
利用したデジタル教材 （アプリ，サイトのアドレス，資料など）	通信アプリ”Skype” 翻訳アプリ ” Google 翻訳”
授業での I C T 機器の活用 方法と手順	ウェブチャットと翻訳アプリによる逐次翻訳を用い，留学生と交流する。 プロジェクタを用い，交流相手の大画面で投影して臨場感を出す。
授業の工夫（ポイント）	<p>入院中のため，他者と直接の交流が難しい児童生徒の実体験を補うために，交流の場面を創出し，医療留学生とビデオチャットでの交流を計画した。</p> <p>翻訳アプリケーションソフト（以下，アプリと表記）を児童生徒の実態に合わせて活用した。</p> <p>翻訳アプリは，どの翻訳アプリがよいか，事前に試験運用を行った。日本語から英語の翻訳では，実用可能であった半面，英語から日本語は，誤訳が多く見られた。誤訳は誤解を生む恐れがあるため，“Google 翻訳”の日本語から英語への翻訳機能のみ利用した。</p> <p>質問するとき，児童生徒の実態に合わせて英語で話すか，アプリで逐次翻訳して伝えるかを選択した。</p>
児童・生徒の様子	<p>外出，外泊等，制限されている児童生徒が多い。内科系の治療により，欠席が多くなったり，治療のため車椅子で生活したり，実態はさまざまである。本時までの授業への出席状況も個々で大きく異なる。</p> <p>当日は3名の児童生徒が参加し，積極的に質問する様子が見られた。留学生の話に対し，うなずいたり体を揺らしたりしながら話を聞き取ろうとする様子が見られた。また，留学生の” My favorite is SUMO.” に，思わず即興で” Do you know HAKUHOU?” と追加質問をする場面も見られた。</p>

## 実践例

配当時間		学習の進め方	指導のポイント
導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶をする。</li> <li>交流の順番や、留学生のメンバーについて確認する。</li> <li>特別支援学校に接続する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間通りに開始できるよう、準備を済ませておく。</li> <li>名前カード、楽器等確認させる。</li> </ul>
展開	30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学部、小学部の順に交流を進める。               <ol style="list-style-type: none"> <li>代表が挨拶をする。</li> <li>一人ずつ英語で話す。                   <ol style="list-style-type: none"> <li>挨拶 "Hello. My name is ○○○○. Nice to meet you."</li> <li>留学生への質問 児童生徒の実態に合わせて、英語か日本語を選ぶ。日本語の場合は、翻訳アプリで逐次翻訳して伝える。</li> </ol> </li> </ol> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>留学生も、あらかじめグループに分かれて、グループごとに順番に交流させる。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>合奏をする。               <ol style="list-style-type: none"> <li>代表が挨拶をする。</li> <li>全員で「崖の上のポニョ」を演奏する。</li> <li>終わりの挨拶をする。</li> </ol> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師も演奏に参加する。</li> </ul>
まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートに感想を記入する。</li> <li>挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流を終えて感じたことを素直に記入させる。</li> </ul>

## 評価

児童・生徒について	児童・生徒の興味・関心	交流する方々の名前や出身国を事前に知り、インターネットで位置や、名産物等を調べ、質問事項を考えた。交流を楽しみにしつつ、同時に不安な気持ちもあった。
	児童・生徒の理解	児童生徒の実態に応じて翻訳アプリを活用することで、外国人とコミュニケーションをとることができた。
	児童・生徒の情報機器の活用度	すぐに翻訳アプリの操作に慣れ、積極的に活用することができた。あらかじめ質問事項を考え、分からない部分はアプリで翻訳して確認したり、日本語で考えた内容をそのままアプリを使って逐次伝えたりした。児童生徒の実態の違いによりさまざまな活用の仕方があった。
授業について	事前準備の難易度	自分の名前を書いたパネルと質問をまとめたワークシートを作成し、意欲的に取り組むことができた。しかし、児童生徒の出席状況が大きく異なるため、個別に準備を補う必要があった。事前学習のみ出席できて、当日欠席する児童生徒は、前もってビデオレターを撮影した。
	指導者にとっての授業展開の難易度	出席する児童生徒に合わせ、交流するグループや、一人当たりの交流できる時間について調整する必要があった。
	授業の「ねらい」の設定は適切であったか	交流の場を創出することで、相手のことを知りとうし、自己紹介や質問事項を考え、積極的に外国人に話しかける姿が見られた。
	効果的な指導方法であったか	外国語活動や英語で学んだことを交流に生かすことができた。翻訳アプリを用いることで、英語を話すことに対する抵抗感が緩和された。

### <実践の感想及び反省点等>

ウェブチャットを活用して施設内教育学級の空間的制約を緩和し、リアルタイムで外国人と交流することができた。また、翻訳アプリを活用して逐次翻訳を行い、言葉の壁を越えたコミュニケーションが垣間見られ、「伝わった」ことを実感できた。反省点として、回線が不安定で接続が途切れ交流が中断されることがあった。